

## 第 10 回歯科再生医療推進ネットワーク協議会議事要旨

1. 日時:2025 年 2 月 25 日(火)13:00~14:30
2. 開催方法:オンライン(Zoom)
3. 出席者(敬称略):

歯科基礎医学会(大島勇人)、日本歯科保存学会(斎藤隆史)、日本補綴歯科学会(江草 宏)、日本歯周病学会(岩田隆紀)、日本歯科医史学会(渋谷 鑛)、日本歯科医療管理学会(尾崎哲則)、日本臨床口腔病理学会(前田初彦)、日本レーザー歯学会(門倉弘志)、日本歯内療法学会(松崎英津子)、日本顎変形症学会(西井 康)、東京形成歯科研究会(奥寺 元)、日本再生医療学会(岡田 潔、飛田護邦、大島勇人、眞野恭輔、清水もも子、半藤ひとみ)

欠席(日本口腔外科学会、日本歯科理工学会、日本接着歯学会、日本有病者歯科医療学会、日本口腔リハビリテーション学会、日本口腔科学会、日本口腔顔面痛学会、日本歯科医学会)

未回答(日本歯科薬物療法学会、日本口腔インプラント学会、日本口腔感染症学会、日本歯科心身医学会、日本顎顔面補綴学会、日本小児口腔外科学会、日本顎顔面インプラント学会、日本外傷歯学会、日本口腔腫瘍学会、日本再生歯科医学会、バイオインテグレーション学会国公立大学歯科臨床研究推進会議)

### 4. 報告事項

#### 1) 各学会等出席者の自己紹介

各学会等出席者より自己紹介があった。

#### 2) 第 9 回歯科再生医療推進ネットワーク協議会議事要旨の確認

資料 1 に基づき第 9 回歯科再生医療推進ネットワーク協議会議事要旨が確認された。

#### 3) 日本再生医療学会における再生医療ナショナルコンソーシアム事業の紹介について

岡田 潔理事より資料 2 に基づき再生医療ナショナルコンソーシアム事業の紹介があった。第 2 期(2021-2023)としては、臨床研究計画等に対する技術支援、臨床研究等に必要の人材の教育と育成、再生医療等臨床研究マッチング(産学連携)支援、患者・市民への再生医療等の情報発信、再生医療等の国際展開を見据えた支援、再生医療等の適正性評価体制の構築であった。第 3 期(2024-2026)では、臨床開発支援、人材育成、適正性評価、産学連携、患者・市民参画、国際展開が柱となる。

#### 4) 認定再生医療等委員会の審査ガイダンスについて

飛田護邦理事長補佐より資料 3 に基づき認定再生医療等委員会の審査ガイダンスの説明があった。法的枠組み(安確法、薬機法)、再生医療等提供計画の推移(第 2 種治療:平成 29 年 52 件→令和 5 年 1,571 件)、細胞培養加工施設の推移(平成 29 年 2,517 件→3,540 件)、令和 6 年に認定再生医療等委員会の適切な審査等業務実施のためのガイダンスの説明があった。科学的妥当性(研究 62 件・治療 17 件の疾病等報告があり、研究として提供するための妥当性[技術・細胞加工物・実施体制]、治療として提供するための妥当性[品質確保等に関して、研究と治療で差異がない]、提供後に示すべき妥当性)、科学的妥当性確保のための課題(臨床研究の成果と治療の連動、治療データの収集、提供を控えるべき医療の選別)、認定再生医療等委員会における利益相反等への対応について説明があった。

#### 5) 歯科・口腔外科領域における再生医療等治療の現状について

眞野事務局長より、歯科・口腔外科領域における再生医療等治療の現状について情報提供があった。2024 年 4 月のデータで、PRP1,632 件の 80%が同一の認定再生医療等委員会で審査されており、歯髄由来幹細胞 20 件の全件が同一の特定認定再生医療等委員会において審査されている。認定再生医療等委員会の審査の質に関する懸念は、Stem Cell Reports に報告された。歯科・口腔外科領

域を対象とした再生医療等治療は約 1,700 件届出されており、再生医療等治療の薬 30%を占める。PRP 治療を受ける可能性の患者数を歯科受診患者数のうち 1~5%と仮定した場合、1 クリニックでの症例数は 360~1800 例に上る。PRP の主な適用分野はインプラント治療、歯周病治療、顎骨再建術、抜歯後の治癒促進、抜歯後の骨吸収抑制。整形外科領域では PRP 治療の標準化が進んでいるが、歯科・口腔外科領域では PRP 治療のガイドラインが存在しない。ガイドラインの例としては、PRP の適応と適応外、PRP の作製と使用基準、安全性とリスク管理などが挙げられる。

6) 歯科再生医療関係のシンポジウムについて

大島勇人理事長補佐より、第 24 回日本再生医療学会総会(3 月 20 日~22 日、於:パシフィコ横浜ノース)にて、「シンポジウム 12 基礎研究に裏打ちされた口腔領域の再生療法へ向けて~間葉系幹細胞と血管ネットワーク研究の視点から」(座長:中川種昭、黄地健仁;演者:久保田義顕、森川 暁、加治屋幹人、岩田隆紀、中山泰秀)、「シンポジウム 22 歯科再生の社会実装へ向けた strategy」(座長:大島勇人、高橋 克;演者:高橋 克/杉並亜希子、高木淳一、時田義人、竹立匡秀、喜早ほのか)で歯科再生医療関係のシンポジウムが企画されている事の報告があった。

5. 協議事項

1) 本協議会の今後の在り方に関するアンケート結果と今後の対応について

大島勇人理事長補佐より資料 4 に基づき本協議会の今後の在り方に関するアンケート結果の報告があった。本協議会の意義については参加学会で共有されたが、参加学会によって温度差があるので、参加する学会、脱退する学会を確認するためにメールで継続の可否を聞き、文書で確認する。確認というステップを通して、本協議会をより実効性のあるものに再編成したいとの説明があり了承された。